

④室内ユニットの据付けの続き

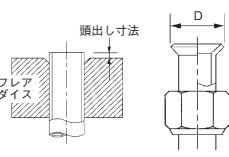
ユニット据付時のお願い

- 上部ナットで水平調整を行わないでください。ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉が発生することがあります。
- ユニットは必ず水平に据付け、ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- 組合せパネルと天井面、および化粧パネルとユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご利用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既存配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410A用のフレア加工をしてください。



フレア加工 頭出し寸法 mm	配管径 d mm	配管の 最小内厚 mm	フレア加工 溝出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 組付けトルク Nm
			リジッド（クラッチ式） R410A用	従来ツール		
6.35	0.8	0.5	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18	8.9 ~ 9.1	8.9 ~ 9.1
9.52	0.8	0.5	12.8 ~ 13.2	34 ~ 42	12.8 ~ 13.2	12.8 ~ 13.2
12.7	0.8	0.5	16.2 ~ 16.6	49 ~ 61	16.2 ~ 16.6	16.2 ~ 16.6
15.88	1	0.5	19.3 ~ 19.7	68 ~ 82	19.3 ~ 19.7	19.3 ~ 19.7
19.05	1.2	0.5	23.6 ~ 24.0	100 ~ 120	23.6 ~ 24.0	23.6 ~ 24.0

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無鋼管（C1220T, JIS H 3300）をご使用ください。
●冷媒配管の内側には、表面有する硫黄、酸化物、コシ、切削粉（ゴンタミ）の付着がないことを確認してください。
●R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。
●熱交換器・ヒートポンプ以外の冷媒を使用すると、冷凍油劣化などの原因になります。また空気などが混ざると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

- 据付け時に使用する配管は屋内に保管し、両端ともラップする状態までシールしてください。

冷媒回路内にゴミ、水が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はR32用またはR410A用ツールを使用してください。

作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取り外す。
- ※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスライスで2丁掛けして外してください。
(このときガス漏れが出ることがあります。異常ではありません。)

- フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかるている場合があります。）

2. 流管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。

- ※配管の曲率は4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。

また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。

※フレア接続は、以下のように行ってください。

- ・フレアナット・接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スライス掛けで表の給付力で締めてください。

3. 室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、パンドでしっかりと締めてください。

- ガス側配管・液側配管とも断熱は完全に行ってください。

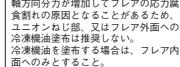
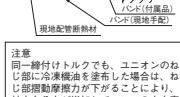
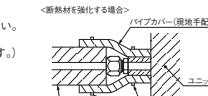
- ガス側配管の断熱材は耐熱120°C以上のものを使用してください。

- 断熱材密度4kg/m³を使用する場合は、断熱材は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。

4. 冷媒は室外ユニットに送られています。

- 室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

注意
同部に断熱材を付しても、ユニオンのねじ部に冷媒漏出を防ぐためには、ねじ部周囲熱拘束部が下がらることにより、軸方向力を増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがありますため、ユニオンねじ部、又はフレア外表面への冷凍機油塗布は推奨しない。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア外表面へのみとすること。



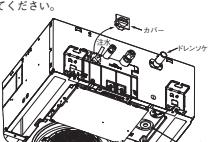
⑥ ドレン配管のつづき

ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部およびユニットのドレンパン部から水漏れないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
- 保証期の据付に際にも必ず実施してください。
- 新築の場合にひarf井を張る前に実施してください。

作業手順

- 配管リッド部のカバー（ねじ2個）を取り外し、下図の位置より給水ポンプなどを使用して、電気部品に水をかけないように、本体ドレン管の中へ約1000cc注水してください。
- ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れないことを確認してください。
- ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
- 排水テスト後は、ドレンフラグを外して水抜きを行ってください。
- 水抜き確認後は、ドレンパン部を元通りにめ込んでください。



ドレンポンプ運転方法

- 電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。

運転操作方法は、電気配線工事説明書【ドレンポンプ運転操作】をご覧ください。

- 電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板上のSW7-1をONにし、かつ、基板上のコネクタCNBを抜いた後、電源ON（端子1①、2②へAC200V）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。

排水確認後は、必ずSW7-1を元の状態（OFF）に戻し、かつ、基板上のコネクタCNBを差し込んでください。

⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。

- 導線と信号線は、同一経路を走らないようにしてください。誤動作や故障の原因になります。

- 構造工事は必ず行ってください。

- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

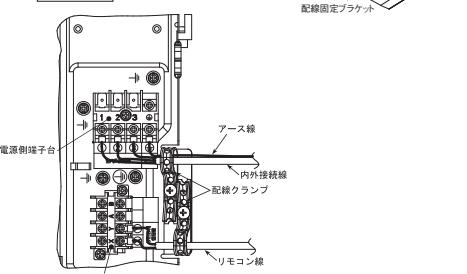
1. 制御箱の蓋（ねじ2個）と配線固定ラック（ねじ2個）を取り外してください。

2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。

3. 各配線を配線クランプで固定してください。

4. 取外した部品を元通りに取付けてください。

配線接続



⑥ ドレン配管

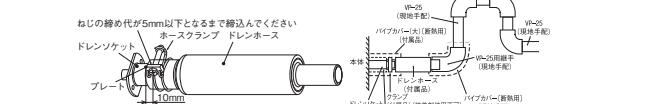
ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
- 不確実な場合、屋内に浸水し、家財を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管は、イオウガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水管には、入れないでください。
- 接続部から漏れないのでないように確実に施工してください。
- 水漏れが止まらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工時にドレン排水が確実に行われていることを、ユニット最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は、下り勾配1/100以上とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
- 施工時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

作業手順

1. 付属のドレンホース（軟質塩ビ管）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm程度のところに取付け、ねじの締め代5mm以下となるまで締込んでください。

●接着剤使用不可



2. ドレンホース（硬質塩ビ端）に、VP-25用組手（現地手配）を接続・接続し、この組手に、VP-25（現地手配）を接続・接続してください。

- ※ドレン管は、市販の硬質塩ビホース内部に流れ込まないようにしてください。

- 乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することができます。

3. ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小な斜面を吸収するためのものであります。故に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。

- ドレン配管は、下り勾配1/100以上とし、途中山越えやトラップを作らないでください。

- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。



4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。

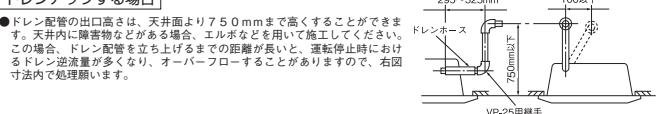
- ドレン管は、水漏れをおこすことがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。

- ※ドレン管は、排水テスト実施後、付属のパイプカバーパーツ（大）をドレン管に接続する場合、パイプカバーパーツ（大）にドレンカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないよう巻いてください。

ドレンアップする場合

- ドレン管の出口高さは、天井面より750mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。

- この場合、ドレン配管を立て上げるまでの距離が長いと、運転停止時ににおけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



⑧ パネルの取付

- パネルは、電気配線工事完了後に、ユニット本体に取付けてください。

- パネルの取付方法は、パネル付属の説明書をご覧ください。

⑨ ユニット据付工事完了後のチェック項目

- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えます	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	運転不能・焼損	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
配線・配管はありますか。	漏電危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えます	

⑩ ドレンパン汚れ確認（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

- ドレンパンの吸込部のドレンパン部のドレンパンの汚れが確認できます。

- （高性能フィルタなどオプション）スベーサー取付け時は確認できません。）

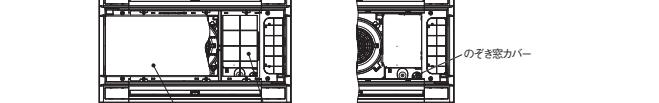
1. サービスパネルとエアフィルタを取り外してください。

2. ドレンパンカバーにいるのぞき窓カバーを取外してください。

3. のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。

- 汚れが多い場合は、ドレンパンを取り外し、ドレンパンを清掃してください。

4. 汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取り外し時の注意事項

- ドレンパンには取止め機構がついています。ドレンパン取り外し時、および取付け時には注意願います。

- ドレンパン取付け後、仮止めフックを外してください。

- ドレンパン取付け時は、仮止めフックを取付け後、確実にねじで固定してください。

